



## 選挙を終えて

栃木県看護連盟副会長  
伊藤 正子

7月29日夕方、私はこのたびの選挙でお世話になった方々の電話番号を便箋に大きく書いて、開票を待っていました。当確が出たら、手早くお礼の電話をかけようと思っていたのです。2時まで待ちましたが、松原さんの名前は出てきませんでした。こんな筈はない、こんな筈はないと独り言を言っていました。「29日は福岡から夫と子供たちも本部に来るのですよ」と先日の来県時に伺っていたので、松原さんとご家族の気持ちを思うとキュッと胸が痛くなつて、どんな気持ちで福岡にお帰りになつたのだろうか?と心配でした。

本当に残念で仕方ありません。絶対勝つと信じていましたから、暫くはショックでボーッとしてしまったのは会長も支部長も、みんながそうだったと思います。でも栃木県はよく頑張りました。松原さんが来県するたびに「松原まなみファン」が増え、みんながあの自然体の笑顔の素敵な松原さんが大好きになりました。松原さんなら、清水先生の後継者として、これから医療・看護を真剣に考え、頑張ってくれる…と講演のたびにその内容に感動し、是非あの国会の檻舞台に立ってもらいたいと夢描いてきました。

25日の東京での反省会は荒れました。看護連盟は何のためにあるのか?看護協会の目標達成のために看護連盟が存在するのに、協会からの協力が足りなかった。両者は表裏一体の関係ではなく、共同体で

ある。特に大都市での票が僅かしか取れていない。地方がいくら頑張ってもこれでは追いつかない。大都市対策を緊急に考えて欲しい。看護協会の教育の中で政治教育をして欲しい。その講師に松原さんを。ミニ研修会を重ね、次回も松原さんで戦って行きたい…。など多くの意見が出されました。

今、丁度どの施設でも就職活動が行われています。就職活動の折に看護部長さんは、必ず協会と連盟の紹介をして下さるようお願い致します。新人の時からの啓蒙が必要で、折に触れて日頃から「看護と政治について」を話題にしたり、今回の敗因を分析し、まとめたものをみんなで回覧したり、発表したりすることも、次の選挙に十分生かせる貴重な財産になると思います。

栃木県ではいち早く3年後の選挙に向けて、連盟会員の数を増やす努力をしながら「松原まなみさん」で戦っていくことを誓いました。6190票の上にさらに新しい票を重ねていくことは、松原さん以外の候補では難しいと思いますので本部に要望しようと思っています。みなさん大変お疲れ様でした。私達は一生懸命戦いましたのでこんなに疲れが出たのですね。しばらくは心身を休めて、また新たな戦いに挑んで行きましょう。

私は玄関の外に貼っていた松原さんのあの素敵なおポスターを、中に貼り直しました。これから3年間の必勝祈願のお守りにしたいと思っています。「松原さん…私達の力が弱かったので、ごめんなさいね」と栃木県では、みんながそう思っています。ご協力とご支援いただきましたすべての皆様方に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。